

No.	種 別	内 容
1	基準項目	教育内容・方法
	指摘事項	(3) 教育研究交流 1) 大学院教育における国際交流の目的と意義は明確化されているが、実質が伴っていない。今後の発展が期待される。
	評価当時の状況	<p>修士課程・博士課程の国際交流は、韓国の亞洲大学校との間で修士課程では相互の、博士課程では亞洲大学校から本学への学生受け入れが実施された。特に、平成11年4月に開設された博士課程では亞洲大学校からの交換留学生在が非社会人としては本学初の課程博士となった。米国の2大学と本学との間で、大学院レベルの交流が活発化しつつある。</p> <p>米国大学大学院との学生交換プログラムは、本学学生の学力水準向上に国際交流が果たす役割として重要である。なお、OSUにはCSUHのALPと同じ機能を持つThe English Language Institute (ELI)があり、英語力が基準に達していない学生については、ELIの講義対応アカデミック訓練コースで、1 Quarter Term ないし2 Quarter Terms の英語力向上学習を課すこととしている。このように欧米大学、特に米国大学、との学生交流活発化は新たな問題も生むが、全体として交換学生制度整備に対する本学の対応は適切な方向にあると云える。</p> <p>上に述べた大学院レベルの学生交換は研究交流も含む。一方、教員の新たな研究交流が協定校との国際交流で生まれている。中国の南京理工大学については、毎年3月本学の教員を派遣して先方の大学院生を主な対象に集中講義を行っている。このことをきっかけに3次元画像技術に関して、先方の教員と本学教員間で学術交流が始まっている。また、オレゴン州立大学とは、光磁性半導体薄膜の特性改善に関するコラボレーションが行われる方向にあり、研究交流は情報工学関係も含めて今後増えるだろう。</p>
	評価後の改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成18年度大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育実践支援)制度に本学の教育プログラム(取組名称:国際協力型SE育成工学プログラムの開発、取組担当者:工学部電気工学科今村正明教授)が採択。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年10月本学教授とオレゴン州立大学(OSU)の教授が中心となってセミナーが開催。</li> <li>・同年11月、スタンフォード大学の教授2名を招聘して、先進的工学教育に関する講演会を開催し、大学院学生のために両教授による「スタンフォード流」工学設計科目の集中講義やシンポジウムが実施された。</li> <li>・平成19年1月本学とスタンフォード大学が共同で研究を行っているテーマについて両大学間でインターネット会議を実施。</li> </ul> </li> <li>なお、オレゴン州立大学(OSU)にはCSUEB(カリフォルニア州立大学イーストベイ校)の米語プログラム(ALP)と同じ機能を持つThe English Language Institute (ELI)があり、英語力が基準に達していない学生については、ELIの講義対応アカデミック訓練コースで、One Quarter Term ないし Two Quarter Terms の英語力向上学習を課すこととしている。</li> <li>●平成20年2月南京理工大学との合同教育研究プログラムに関する覚え書きを締結。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年4月より南京理工大学の大学院生2名が本大学院工学研究科に入学。</li> <li>・平成22年3月には本大学院より工学修士の学位を、平成22年8月迄には南京理工大学より修士の学位を取得する予定。</li> </ul> </li> <li>現時点ではこのプログラムは一方のみのダブルディグリー制度であるが、近い将来本大学院の学生が南京理工大学に留学するシステムを構築することが望まれる。</li> <li>●平成20年8月、本学を含む国公立4大学連携事業が平成20年度文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に採択。(平成20年度~22年度) <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年9月、4大学が「国公立大コンソーシアム・福岡」の結成に関する協定締結。</li> </ul> </li> <li>現在、各大学において、「単位互換に関する包括協定書」に基づき、プログラム開発委員会で検討した単位互換対象科目(平成21年度)を開講中である。将来的には、アジアの大学との大学院生の交流プログラムを開講する予定である。</li> </ul>

改善状況を示す具体的な根拠・データ等					
詳細は「点検・評価報告書（2008）」p178～p180 参照					
<大学基準協会使用欄>					
検討所見					
改善状況に対する評定	1	2	3	4	5